

先生、ありがとうございます

神 崎 信 博

四八

「やあー 神崎君ではないか」、何だか目がしらが熱くなるような思いで私は「はい」と応えました。すると先生は「元気か」と私を励ましてくれました。

それは先生より一足さきに永眠されました奥様の告別式のことでした。

これが渡辺澄夫先生と最後の会話になろうとは夢想だにしませんでした。

私は大分大の出身(昭和三五年卒)ですから、先生との出会いは自然大学ということになります。

当時、先生が庄園研究の権威だということは重々承知していましたが、勉強無精の私は、先生から格別にご指導を仰ぐようなことは、自分の方から避けていたような気がします。

そんな訳ですから、先生との本当の出会い、私が昭和四七年に同大学へ内地留学をしてからということになります。

依頼、到津文書をはじめ各種文書の实地調査に参加させていただくことによって、古文書の解説を中心に地方史研究の手ほどきを、先生から直に受ける幸運をつかむことができました。

同時に、先生のお骨折りで『大分の歴史』(大分合同新聞社)や『大分県地名大辞典』(角川書店)の一部執筆にも加わらせていただくことができました。

こうした貴重な体験をさせていただく中で、先生の学問に対するきびしい姿勢や精力的な取り組みを垣間見たような気がしております。一方で、先生は詩吟や謡曲にも精通していたらしく、時折、調査でお疲れになった時はそれを口ずさんでいたようです。

正に硬軟両様をこなされる先生のその生き方には敬愛して余りありません。にもかかわらず、先生からお受けした過分のご恩に一つとして十分にお応えできなかった自分を恥ずかしくも情けなくも思っております。

渡辺先生、ありがとうございます。

(佐賀関町立神崎中学校長)